

平成 27 年度第 1 回技術委員会議事録

会議名	金属・セラミックス技術委員会	主催者：電気学会
日時	平成 27 年 4 月 23 日(火)15:00～17:00	場所：電気学会第 4 会議室
出席者	吉川(横国大)、木村(古河)、一瀬(電中研)、岩城(日立)、窪谷(東芝)、高木(東京工科大) 水野(鉄道総研)、伴野(NIMS) 【敬称略】	

【配布資料】

- 1) 270423-1 前回 (H27/1/20) 議事録 (案)
- 2) 270423-2 電気学会 金属・セラミックス技術委員会 名簿
- 3) 270423-3 平成 27 年度 金属・セラミックス技術委員会分掌
- 4) 270423-4 A 記事提案
- 5) 270423-5 特集号記事の提案結果について
- 6) 270423-6 第 2 回電気学会調査専門委員会開催案内
- 7) 270423-7 平成 27 年度 金属・セラミックス技術委員会活動計画
- 8) 270423-8 「基礎材料フォーラム」開催のお願い (案)
- 9) 270423-9 共通英文論文誌の Invited Review Paper (メールコピー) について

【議事】

1. 前回議事録の確認

- ・ 資料 270430-1 に基づき前回議事録の確認を行い承認された。

2. 名簿の確認

- ・ 資料 270430-2 に基づき名簿が確認された。追加で木村委員、岩城委員の所属名の変更があった。

3. 役割分担の確認

- ・ 資料 270430-3 に基づき各委員の役割分担について確認された。

4. 委員の追加について (A 部門でもう一名)

- ・ 吉川委員長より日高睦夫氏 (産総研) のご内諾は得られているが手続きは途中との報告があった。
- ・ A 部門に入っている人でさらに 1 名を勧誘することも検討中。

5. 特集号の企画について

- ・ 吉川委員長より資料 270430-4 に基づき提案記事について説明があった。
- ・ 窪谷委員から資料 270430-5 に基づき 3 月の編集委員会の報告があった。レビュー論文自体の提案は了承されており、2016 年 10 月掲載で編集委員会より要請されている旨報告があった。
- ・ スケジュールの大まかな目安として、通常企画提案が 17 ヶ月前 (済)、会告期限が 13 ヶ月前 (逆算すると 9 月)、投稿期限が 10 ヶ月前 (12 月)、査読に 6 ヶ月必要、校正に 3 ヶ月とのことである (後日送られた窪谷委員のメールより)。期間を短縮した例もある。エディタ (藤巻委員) の裁量に任せる。
- ・ 技術委員会で議論された結果、他の論文誌の特集号との兼ね合いで、当技術委員会としては 2016

年1月を投稿締切とすることが決められた。

- ・掲載論文の取り扱いを Invited Review 論文（共通英文論文誌にはあるが、A 部門誌にはない）にできるかについて議論があった。レビュー論文の掲載には提案用紙の提出が必要となる。招待論文とできれば掲載料はいらぬ。ただし内容にオリジナルのものが含まれることが必要とされる。
- ・A 部門誌に Invited Review 論文のカテゴリーを作ることが編集委員会では議論されているとの意見があった。
- ・合わせて、窪谷委員より 270423-9 に基づき共通英文論文誌の Invited Review Paper について説明があった。A 部門の担当は 2016 年 11 月号とのこと。テーマのネタ出しをしておく必要はある。案としてリニアモーター関係、デバイスが上がった。

6. 調査専門委員会活動状況

- ・吉川委員長より資料 270423-6 に基づき、第 2 回電気学会調査専門委員会開催案内について説明があった。位相エンジニアリングという新しい分野の開拓が進められている。

7. 平成 27 年度活動計画

- ・資料 270423-7 に基づき議論された。
- ・研究会：通信学会との連携の場合、若手セミナー(8/4 - 8/5)なら可能。研究会とのタイアップは難しい。B 部門とのタイアップについては、春季低温工学・超電導学会の開催中に 10 分ぐらい打ち合わせをする。伴野委員が日程調整。
- ・全国大会シンポジウム：A、B 部門タイアップを検討する。例えば超伝導ケーブルなど。
- ・A 部門大会：一瀬委員より、9 月に金沢大で開催される A 部門大会において、企業からの招待講演を行う案が出されていることが報告された。金セラ委員会で講師を推薦してほしい。これにより金セラ委員会の紹介は無くなるか。
- ・また一瀬委員より資料 270423-8 に基づき、部門運営の収益状況の説明とともに「基礎材料フォーラム」開催の要請があった。参加費を収入源にしてはどうかということが開催の狙いとのこと。議論では、調査委員会をベースにするしかない、調査委員会の最後をフォーラムにしてはどうか、資料はパワポの寄せ集めでよいなどの意見が出された。金セラ委員会の収支について、伴野委員から事務局山本氏に問い合わせる。
- ・新規調査専門委員会の提案について、前回超伝導材料の評価技術というテーマ案が上がったが、春季低温工学・超電導学会開催期間中に木須先生と打ち合わせしていただきたい。一瀬委員に調整をお願いします。磁気浮上に関しては産業化しているので不適切との意見が出された。

8. その他

- ・委員回数を年 4 回とすることとなった。7 月にも開催することとする。